

レト便り Vol.1



May 2010

ドゥメラ！（レトの公用語ソト語の挨拶）

アフリカ南部の小さな王国レトから、「レト便り」の第1号です。お送りするのは、国連人口基金（以下、UNFPA）レト事務所に国連ボランティアとして派遣中の小杉大輔と申します。青年海外協力隊・エイズ対策隊員としてのジャマイカでの活動を経て、2009年2月に赴任しました。すでに赴任後1年以上が経過してしまいましたが、今までの活動も含めて、これから「レト便り」として、私自身の業務、UNFPA レト事務所の活動、そして日本の皆さんにあまり知られていないレトという国についても、現場からの声として報告していきたいと思っています。

■ レト王国の概要

-天空の王国-

レト王国と聞いて、すぐにピンとくる人は少ないと思います。私自身、少し耳にしたことがあったくらいでした。レトは、人口190万人ほどで、国土は日本の九州よりも小さく、国の周囲すべてを南アフリカ共和国（以下、南ア）に囲まれています。レトは世界で唯一、国土全域が標高1500メートルを超える国で、「山の王国」「天空の王国」とも呼ばれる美しい国です。四季があり、冬（5月から8月）には雪も降ります。なんと、アフリカでも珍しいスキー場もあるんです。



今年6月には南アでサッカーのワールドカップが開かれるので、レトもたいへん盛り上がっています。日本代表の第1戦（対カメルーン）が行われるのはレトの首都マセルから車で1時間半ほど行ったところにある、南アのブルームフォンテンという街です。もちろん、私も応援に行きます！！

-貧困、食糧危機-

レトの輸入品の大半は南アからで、南アへの出稼ぎ労働者からの仕送りが大きな収入源であるなど、レトの経済は大きく南アに依存しています。他の多くのアフリカ諸国と同じように貧困問題を抱えるレトは、干ばつなどで慢性的な食糧危機に陥っています。



-HIV 感染率世界3位-

レトは、HIVの成人感染率が隣国の南ア、スワジランドに次いで世界で3番目に高く、成人（15-49歳）の約4人に1人（23.6%）がHIVに感染している状況です。

-乳児死亡率、妊産婦死亡率-

レトの乳児死亡率は（出生1000に対して）67、妊産婦死亡率は（出生10万に対して）960です。妊娠、出産、

産後の時期およびそれに関連した合併症で死亡する女性が 10 万人に 960 人(日本は 3 人)、つまり 100 人に約 1 人のお母さんが命を落とすのです。これには文化的背景、病院や助産師の数、地形、そして貧困など様々に理由があげられます。これについては、また別の機会に詳しく書きたいと思います。

■ 業務内容

UNFPA には、(1) 人口と開発 (Population and Development) (2) 性と生殖に関する健康/権利 (Reproductive Health/Rights) (3) ジェンダーの平等 (Gender Equality) という 3 つの重点領域があり、UNFPA レソト事務所もこの 3 つのプログラムを中心に活動しています。

当初、私はリプロダクティブ・ヘルス担当官 (Reproductive Health Officer) として着任しました。しかし赴任後、レソト事務所では青少年と教育の分野での活動がほとんど行われていないので、この分野を中心に活動するように事務所長から言われ、現在は青少年・教育担当官 (Youth and Education Officer) として働いています。ちなみに、国連ボランティアといっても任される仕事と責任は一般職員と特に変わりません。

UNFPA の現地事務所の業務は、基本的には現地政府の資金援助・技術支援です。UNFPA は上記の各分野において関係省庁と作成した年間計画に沿って、プロジェクトに資金とアドバイスを提供し、実際にプロジェクトを実行するのはすべて現地政府の仕事なのです。

2009 年の私の業務は主に、青少年と教育の 2 分野において、担当省庁との関係作りと 2010 年の年間計画の作成でした。政府がどういったプロジェクトを行いたいのか、どういった人々が対象になり、どれくらいの効果が見込まれるか、それが UNFPA の支援領域に沿っているか、予算はどれくらい必要かといった事を、会議を重ねて話し合ってきました。この「レソト便り」を昨年出さなかった理由のひとつは、主な業務がこういった地味なものだったからです。国連機関の現地業務のほとんどが、会議というのは赴任してみて初めて知りました。日によっては、一日に 3 つ 4 つの会議が重なることもよくあります。しかし、会議を重ねて辛抱強く現地政府を支援し続けるのは、国連としての大事な仕事なのです。

■ 2009 年 世界人口デー

最後にひとつ、昨年行われた大きなイベントを紹介したいと思います。



UNFPA は 2009 年 7 月 11 日の世界人口デーのテーマを、“Responding to the Economic Crisis: Investing in Women is a Smart Choice.” (賢い選択：女性に投資し、経済危機に対応する) と設定しました。レソトでも同日、北部のクティン (Quthing) 県で独自のテーマ “Empower a Women, and Shape the Future of Children” (力と権利を与えることによって女性の社会的地位を向上させ、

子どもたちの未来を築く) を掲げて盛大に祝いました。クティン県には南アとの国境ゲートがあり、多くの人々が南ア側に (多くの場合農場へ) 職を求めて国境を越えていきます。夫が出稼ぎに行く場合、多くの女性が道で物売りなどをして残された家族を支えます。出稼ぎに出た男性が現地で婚外交渉をして HIV や性感染症に感染して戻ってくることも珍しくありません。また、出稼ぎに出て行く女性も少なくありません。その場合、子どもた



ちは孤児同然にレソト側に残されます。こういった背景を踏まえ、女性に力と権利があり、自分の生まれた国で自立して生計を立てることができれば子どもの未来を明るくすることになるという考えのもと、上記のテーマが作られたのです。

このイベントは、多くの人たちが参加した行進に始まり、大臣をはじめ多くの関係者が、ジェンダーに基づく暴力や HIV の危険性、女性の社会的地位向上についての

スピーチをしました。また、クティン県の女性グループによる手工芸品や野菜などの販売、高校でのジェンダーをテーマにした討論大会の授賞式なども同時に行われました。多くの人たちが、この機会にジェンダーについての問題、クティン県の女性の現状などについて新たな認識を持ってくれたと思います。



小杉大輔

Youth and Education Officer
UNFPA Lesotho Country Office



UNFPA...because everyone counts